

事業報告

令和元年度 教育事業

信州高遠ボランティア養成研修

令和元年5月25日(土)～26日(日)

【対象】高校生・大学生・社会人

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

国立信州高遠青少年自然の家の自然環境を活かした様々な体験活動や学習を通して、青少年教育施設における子供たちの体験活動を支えるボランティアとしての必要な知識・技術 について研修する。

～主催・後援・協力団体～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：長野県教育委員会

協力団体：国立大学法人信州大学 国立大学法人上越教育大学

～活動日程～

25日(土)		26日(日)	
9:30～	受付	9:00～	(6)安全管理の基礎知識・技術(3h) 「安全に活動するために」 ①救急救命講習(演習) 【講師】上伊那広域消防本部 職員
10:00～	開講式・アイスブレイク		
10:30～	(1)青少年教育施設の現状と運営(1h)		11:00～ ②熱中症の予防と対策(講義・演習) 【講師】大塚製薬 小林 繁氏
	(2)青少年教育施設におけるボランティア活動(0.5h)		
12:00～	荷物移動・昼食	12:00～	昼食
13:30～	(3)青少年教育の理解(1.5h) 【講師】國學院大学 准教授 青木 康太郎氏	13:00～	(7)ボランティア活動の意義(1.5h) 【講師】茨城県生涯学習・社会教育研究会 会長 長谷川 幸介氏
		14:45～	(8)青少年教育施設におけるボランティア活動(0.5h)
15:20～	(4)ボランティア活動の技術(4h) 「野外調理 基本の“基”を学ぼう(実習)」	15:15～	閉講式・解散
19:30～	(5)青少年教育施設におけるボランティア活動(1h)		
20:30～	入浴・就寝準備		

～参加者～

大学生：41名 (長野県、東京都)

～活動トピックス～

講義Ⅰ「自然の家ってどんなところ？」

講師：信州高遠青少年自然の家 ボランティア・コーディネーター
青少年教育施設の教育機能や役割、運営について理解するとともに、法人ボランティア制度について理解を深めた。



講義Ⅱ「子どもたちの“今”を知ろう」

講師：國學院大学 准教授 青木 康太郎氏
青少年における体験活動の現状や必要性、教育的意義、今後の活動の在り方について学んだ。参加者は、子どもが置かれている状況によって自然体験活動の経験に格差があることや、子どもに体験させることにとどまるのではなく、どのように体験させるかという質の重要性に着目する視点を持つことができた。

演習Ⅰ「野外調理の基本の“基”を学ぼう！！」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員
KYTを行い、リスクマネジメントについて学んだあと、カレーの野外炊事を行い、火おこし、火の管理などの野外調理の基本的な技術について学んだ。





講義Ⅲ「法人ボランティアって何するの？」

講師：信州高遠青少年自然の家 ボランティア

高遠で法人ボランティアとして活動している 6 名が講師として運営を行った。子どもとの活動する様子を写真などを交えて具体的に説明したあと、グループに分かれて参加者からの質問に答えた。参加者からは「大変そうだと思っていたが子どもたちと触れ合いながら企画なども経験して自分も成長できるのだと思った。」などボランティアの魅力を伝えることができた。

演習Ⅱ「安全に活動するために～救命救急法講習～」

【第1部】講師：上伊那広域消防本部 職員

信州高遠青少年自然の家 職員（応急手当普及員）

消防署署員から子どもに起こりやすい事故や野外活動での事故の特性を学んだあと緊急時の対応や AED を使った救命救急に必要な救急救命方法の実習を行った。

【第2部】講師：株式会社大塚製薬工場 小林 繁 氏

熱中症予防対策講義として、熱中症の予防法、対処法を学んだ。講義では熱中症を発症するメカニズムから学び、予防の重要性について理解することができた。



講義Ⅳ「ボランティア活動の意義」

講師：茨城県生涯学習・社会教育研究会 長谷川 幸介氏

社会教育・社会教育施設の考え方やボランティア活動の特徴や抱えている諸問題について学び、ボランティア活動の意義について理解を深めた。

講義Ⅴ「法人ボランティアになるには？」

講師：信州高遠青少年自然の家

ボランティア・コーディネーターから法人ボランティア登録制度について、登録の方法や活動を行うための手続き等について理解を深めた。

～参加者の声～

- 今の子どもたちの姿を想像しながら考えることができた。子どもの目線になることが大切だと思った。
- やって見なければ失敗しない、自分が成長することもできないと思うので、この養成研修をきっかけに進んで取り組めるようになりたい。

～成果と課題～

○講義では外部講師から実践例や事例を交えた座学だけではなく、ワークショップを交えて講義をいただくことで、受講者にとって理解を深め、活動への意欲の高めることにつながったと考える。また、同世代の先輩ボランティアから活動の様子を聞き、より具体的なイメージができたと感じる。

●カリキュラムの範囲内で、実技や実習を多く取り入れられるよう検討が必要であると感じる。